



～内臓脂肪測定 CT 検査を受けてみてはいかがでしょうか～

もしかしたら「かくれ肥満」かも…？

メタボリックシンドロームとは、肥満に高血圧・高血糖・脂質代謝異常といった動脈硬化の危険因子が組み合わさることにより心臓病や脳卒中になりやすい病態を指します。

メタボリックシンドロームにおける腹囲の基準は、へその位置で測定し男性で 85cm 以上、女性で 90cm 以上とされています。

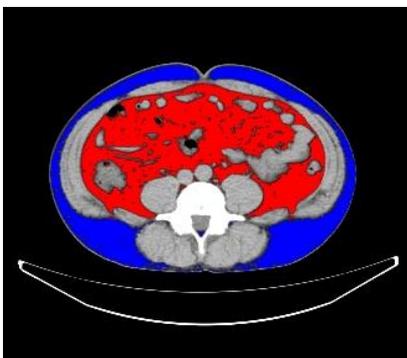
しかし、腹囲計測だけではウエストは細いが内臓脂肪の量が多い、いわゆる「かくれ肥満」を見つけることができません。

なぜなら肥満には「皮下脂肪型」と「内臓脂肪型」の 2 種類があるからです。生活習慣病のリスクを高めるのは内臓のまわりに脂肪が付着する内臓脂肪型肥満ですが、腹囲計測では 2 種類の脂肪が判別できず正確な内臓脂肪の量は分かりません。

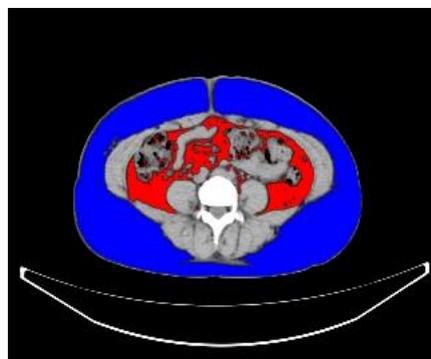


内臓脂肪測定 CT 検査（ファットスキャン）では正確に内臓脂肪の蓄積を判断することができます。

下の 2 枚の画像は CT 検査で撮影したものを解析したものです。2 枚とも腹囲 101cm の画像です。

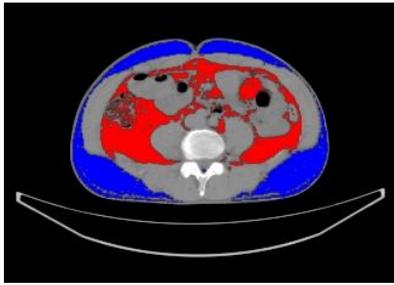


内臓脂肪型肥満



皮下脂肪型肥満

上図のように色分けされた画像が作られます。青い部分が皮下脂肪で赤い部分が内臓脂肪です。この内臓脂肪である赤い部分の面積を計算し、 100 cm^2 を超える場合、内臓脂肪型肥満と診断されます。



左の画像は腹囲の計測では肥満ではありませんが、内臓脂肪測定CT検査の結果、内臓脂肪が100 cm³を超えていたため内臓脂肪型肥満でした。

(腹囲 84.5cm)

このように、腹囲計測では見つけられない「かくれ肥満」をCT検査なら見つけることができます。

内臓脂肪測定CT検査ってどんな検査？

CT装置のベッドに寝てもらい、へその位置に合わせた断面の写真を1枚撮る検査です。

3分程度で終了します。食事制限も無く、痛みや不快感のない簡単な検査です。

被ばくはどれくらいするの？

内臓脂肪測定CTの被ばく量は、体格や撮影条件に多少の誤差はありますが、表のように胸部のレントゲンの正面と側面の2枚を撮影した時の被ばく量とほぼ同等であることがわかります。

また、がんが発生するリスクが上昇するといわれている被ばく量の1/500の量であるため、発がんリスクの心配はありません。

等価線量(mSv)	
0.06	胸部レントゲン (正面のみ)
0.18	胸部レントゲン (正面,側面)
0.2	内臓脂肪CT
0.3~0.9	マンモグラフィ
1.3	胸部CT
2.1	1人あたりの年間自然放射線量
3.3	胃レントゲン
100	がん発生リスク上昇

早期発見が大事！

早期の予防・対策を行うために、内臓脂肪の測定は極めて重要となっております。

見た目も分かり易いため、定期的に検査することで生活習慣の改善が目に見え、モチベーションの維持にも繋がるかと思えます。

是非、健診をご受診される機会に内臓脂肪測定CT検査(ファットスキャン)と一緒に受けてみてはいかがでしょうか。